

令和7年播種（令和8年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔12月15日付調査結果〕

*調査は12月17日に行っている

1. 供試品種および耕種概要（中旬区・下旬区共通）（中旬播種区）

供試品種	早 生	中 生
六条	シュンライ	ミノリムギ
大麦	ホワイトファイバー	
小 麦		シラネコムギ 夏 黄 金

- ・土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6.0kg/a
- ・排水対策：暗渠および弾丸暗渠
- ・ほ場条件：沖積埴壌土 転換初年目（前作水稻）

- ・播種期：10月22日
- ・播種量：0.9 kg/a（ドリル播き、条間 25 cm）
- ・施肥：尿素・過リン酸石灰 777 号
(N : 0.8 kg/a、P : 0.8 kg/a、K : 0.8 kg/a)
- （下旬播種区）
- ・播種期：10月30日
- ・播種量：1.0 kg/a（ドリル播き、条間 25 cm）
- ・施肥：（中旬播種区と同じ）

2. 気象概況〔10月～12月第3半旬〕(図1)

- ・平均気温は、10月第1半旬～第2半旬、11月第5半旬～第6半旬が高温傾向で経過し、それ以外の期間は平年並～平年より低く経過した。
- ・降水量は、10月第1半旬、第3半旬～第4半旬、第6半旬、11月第1半旬、12月第1、3半旬が多雨となり、12月第1半旬、第3半旬には降雪があった。
- ・日照時間は、10月第3半旬～第5半旬、11月第2半旬、第5半旬、12月第1半旬、第3半旬が寡照で、10月第1半旬、11月第1半旬、第3～4半旬が多照であった。

3. 生育概況

1) 播種・出芽状況（表1）

- ・中旬播種区の出芽日数は大麦・小麦ともに10日で、平年より1日遅かったが、出芽良否は、大麦と小麦ともに「良」であった。
- ・下旬播種区は、播種後の降雨によって土壌クラストが発生し、出芽日数は大麦・小麦ともに14日で、平年より3日遅く、出芽良否は、大麦と小麦ともに「中」であった。

2) 12月17日現在の生育状況（表2）

中旬播種区

- ・草丈は、シュンライが7.6cm、ミノリムギが8.6cm、シラネコムギが9.7cm、夏黄金が9.7cmで平年を下回った。ホワイトファイバーは9.1cmで前年を下回った。
- ・茎数は、シュンライが257本/m²、ミノリムギが313本/m²、シラネコムギが493本/m²、夏黄金が371本/m²で平年を下回った。ホワイトファイバーは258本/m²で前年を下回った。
- ・葉数は、シュンライが3.9枚で平年差-1.2、ミノリムギが3.9枚で平年差-1.3、シラネコムギが3.9枚で平年差-1.5、夏黄金が4.1枚で平年差-1.0であった。ホワイトファイバーは3.4枚で前年差-1.8であった。
- ・葉色（GM値）は、シュンライが47.0、ミノリムギが51.7、ホワイトファイバーが50.3、シラネコムギが45.9、夏黄金が49.7であった。

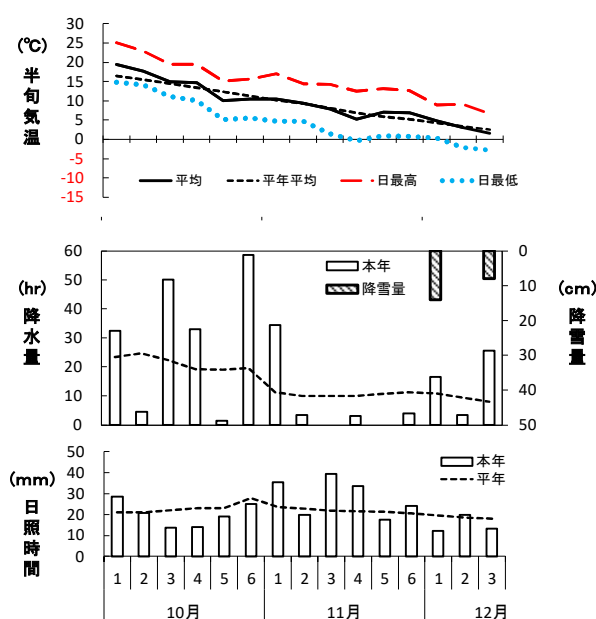


図1：気象概況（古川アメダス）

下旬播種区

- ・草丈は、シュンライが 5.6cm、ミノリムギが 5.9 cmで平年を下回り、シラネコムギが 11.4 cm、夏黄金が 9.7cm で平年をやや上回った。ホワイトファイバーは 6.2 cmで前年を下回った。
- ・茎数は、シュンライが 146 本/m²、ミノリムギが 119 本/m²、シラネコムギが 163 本/m²、夏黄金が 175 本/m²で平年を下回った。ホワイトファイバーは 167 本/m²で前年を下回った。
- ・葉数は、シュンライが 3.1 枚で平年差+0.2、ミノリムギが 2.7 枚で平年差-0.3、シラネコムギが 3.1 枚で平年差-0.3、夏黄金が 3.0 枚で平年差-0.1 であった。ホワイトファイバーは 2.9 枚で前年差-0.8 であった。
- ・葉色（GM 値）は、シュンライが 48.8、ミノリムギが 47.6、ホワイトファイバーが 49.8、シラネコムギが 43.6、夏黄金が 45.6 であった。

3）幼穂長及び幼穂分化程度（表 3）

- ・中旬播種区の幼穂長は、シュンライが 0.42mm、ミノリムギが 0.38mm、ホワイトファイバーが 0.42mm、シラネコムギが 0.12mm、夏黄金が 0.15mm であった。
- ・下旬播種区の幼穂長は、シュンライが 0.19mm、ミノリムギが 0.19mm、ホワイトファイバーが 0.15mm、シラネコムギが 0.11mm、夏黄金が 0.11mm であった。12 月 17 日現在、いずれの播種期・品種も、幼穂形成始期には達していない。

4. 栽培管理の状況

- ・播種後はプロスルホカルブ乳剤（商品名：ボクサー）を散布した。
- ・年内に踏圧を行う予定。

表 1 出芽状況

	品種	区別	播種期	出芽期	出芽日数			出芽良否
					本年	前年差	平年差	
大 麦	シュンライ	中旬播種区	10/22	11/1	10	+4	+1	良
		下旬播種区	10/30	11/13	14	+5	+3	中
	ミノリムギ	中旬播種区	10/22	11/1	10	+4	+1	良
		下旬播種区	10/30	11/13	14	+5	+3	中
	ホワイトファイバー	中旬播種区	10/22	11/1	10	+3	-	良
		下旬播種区	10/30	11/13	14	+5	-	中
小 麦	シラネコムギ	中旬播種区	10/22	11/1	10	+4	+1	良
		下旬播種区	10/30	11/13	14	+5	+3	中
	夏黄金	中旬播種区	10/22	11/1	10	+4	+1	良
		下旬播種区	10/30	11/13	14	+5	+3	中

注1) 出芽日数: 播種翌日から出芽期までの日数。

注2) 出芽良否: 出芽率 80%以上を「良」、60%以下を「不良」、その中間を「中」とする。

注3) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注4) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年差はない

表 2 生育状況

品種	区別	草丈(cm)			茎数(本/㎡)			葉数(枚)			葉色 (GM値)		
		本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	
大麦	シュンライ	中旬播種区	7.6	58	62	257	36	41	3.9	-1.1	-1.2	47.0	+6.2
		下旬播種区	5.6	80	75	146	64	60	3.1	+0.6	+0.2	48.8	+6.6
	ミノリムギ	中旬播種区	8.6	57	65	313	42	50	3.9	-1.5	-1.3	51.7	+12.4
		下旬播種区	5.9	69	72	119	38	46	2.7	-0.3	-0.3	47.6	+6.0
	ホワイトファイバー	中旬播種区	9.1	67	—	258	36	—	3.4	-1.8	—	50.3	+9.5
		下旬播種区	6.2	73	—	167	52	—	2.9	-0.8	—	49.8	+3.0
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	9.7	62	72	493	74	82	3.9	-1.9	-1.5	45.9	+5.4
		下旬播種区	11.4	104	108	163	87	69	3.1	-0.3	-0.3	43.6	+4.2
	夏黄金	中旬播種区	9.7	79	85	371	58	80	4.1	-1.4	-1.0	49.7	+6.1
		下旬播種区	9.7	106	112	175	85	85	3.0	-0.1	-0.1	45.6	+3.6

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。
注2) 越冬前目標生育量: 葉数4～5枚、分けつ1～2本、茎数 400～500 本/㎡。
注3) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年比(差)はない。
注4) 葉色は令和6年播種(令和7年産)から測定を開始したため平年差はない。

表 3 幼穂長及び幼穂分化程度

品種		区別	幼穂長(mm)			幼穂 分化 程度
			本年	前年差	平年差	
大 麦	シュンライ	中旬播種区	0.42	-0.33	-0.34	V未満
		下旬播種区	0.19	-0.06	-0.07	V未満
	ミノリムギ	中旬播種区	0.38	-0.25	-0.19	V未満
		下旬播種区	0.19	-0.08	-0.09	V未満
	ホワイトファイバー	中旬播種区	0.42	-0.45	-	V未満
		下旬播種区	0.15	-0.13	-	V未満
小 麦	シラネコムギ	中旬播種区	0.12	-0.13	-0.06	V未満
		下旬播種区	0.11	0.06	0.00	V未満
	夏黄金	中旬播種区	0.15	-0.04	-0.02	V未満
		下旬播種区	0.11	0.07	0.02	V未満

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。
注2) 幼穂長は、中庸な6個体の主茎と1号分けつ、2号分けつの幼穂長の平均値から算出している。
注3) 幼穂分化程度: V 期未満は省略。
注4) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年差はない。

[参考] 麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期			穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0

注1) 幼穂分化程度は I ～ X の10期に分類されるが、V 期以前は外部形態による判定が困難であるため省略した。

注2) 厳密にはⅦ期は前期と後期に、Ⅸ期は前期、中期、後期に区分される。